

深イ～話!

No.12

——「鏡の法則」 野口嘉則著より(実話)——



A子さんには悩みがあった。
小学校5年になる息子が、学校でいじめられるのだ。
いじめられるといっても、暴力まではふるわれならしい。
友達から仲間はずれにされたり、何かあると悪者扱いされたりすることが多いようだ。息子は、「いじめられているわけじゃない」と言い張っているが、息子を見ていると、寂しそうなので、Aさんは胸が痛むのだ。

そんなとき、経営コンサルタントで心理学にも詳しいB氏に相談した。
「結論から言いますと、大事なお子さんが人から責められて悩んでいるということは、あなたが、誰か感謝すべき人に感謝せずに、その人を責めて生きているからなんです。」

Aさんは、とても衝撃を受けた。
「現実にかかる出来事は、ひとつの『結果』です。『結果』には必ず『原因』があるのです。つまり、あなたの人生の現実、あなたの心を映し出した鏡だと思ってもらうといいと思います。例えば、鏡を見ることで、『あっ、髪型がくずれている!』とか『あれ?今日は私、顔色が悪いな』って、気付くことがありますよね。
鏡がないと、自分の姿に気付くことができませんよね。人生という鏡のおかげで、私たちは自分の姿に気づき、自分を変えるきっかけを得ることができるのです。
人生は、どこまでも自分を成長させていけるようにできているのです。」

Aさんは日ごろから夫のことを「思慮の浅い人」「教養がない」「デリカシーがない」と軽蔑していた。そして息子に『しっかり勉強しないと、お父さんのような仕事くらいはできなくなるのよ。』と言っていたのだ。またA子さんにはもうひとつ根本的な原因があった。それは、実家の父親に対して、どうしても『許せない』という思いがあったこと。
職人気質の、厳しく口やかましい父が、ずっと疎ましかったのだ。

それでもAさんは息子の問題解決のためならと、B氏から言われたとおりのことを実践していった。その結果、父親・夫にも感謝するようになり、息子もウソのように友人たちといい関係を築けるようになった。

『人生で起こるどんな問題も、何か大切なことを気付かせてくれるために起こるんです。つまり、偶然起こるのではなくて、起こるべくして必然的に起こるんです。』
『ということは、自分に解決できない問題は決して起こらないのです。』と締めくくっている。

※この「鏡の法則」の全文のコピーをほしい方は、西島までお電話ください。無料でお渡しします。